

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	静岡大学(布橋)教育学部附属浜松小中学校	階数	地上3F
建設地	静岡県浜松市中区布橋三丁目271-1	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第一種住居地域	平均居住人員	520 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,640 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年2月27日
敷地面積	50,146 m ²	作成者	小倉 謙二
建築面積	1,671 m ²	確認日	
延床面積	4,373 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 79%
④上記+ 79%

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境 適切に空調を配置し、室温制御を行い、快適な室内空間を計画します。 南面の開口部に庇を設け、夏期の日射を遮り、冬期の日射を取り入れる計画とする。	Q2 サービス性能 室内空間は十分な天井高を確保し、外部は清掃が容易な仕上げとする。 設備更新に必要な点検口を設け、維持管理を容易にする。	Q3 室外環境(敷地内) 既存の緑地を極力残置する計画とする。
LR1 エネルギー 一次エネルギーの削減を十分に行う。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない材料を使用し、解体範囲も最小限とすることで、資源の有効化を図る。	LR3 敷地外環境 校庭周囲に建物を配置し、砂塵の影響が周囲へ及ばない工夫をするともに、建物高さを極力抑え、周囲へ日影の影響が少ない計画とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	静岡大学教育学部附属浜松小中学校	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0 /5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4 /5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.4 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつつ 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.0	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①一般的な空調計画とする ②連窓サッシによる大開口を計画する ③各階に庇を設け、ブラインドを設置する ④防汚性、メンテナンス性に優れた材料を選定し、設備更新が容易にできるメンテナンススペースを確保する</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤敷地内の植栽やビオトープなどは触らない計画とし、生物環境の保全を行う ⑥緑地や校庭などの空地を残し、敷地内環境の向上を行う</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦十分な断熱材を施工する ⑨高効率機器を採用する ⑩施設利用者が利用エネルギーの把握が行えるようにする</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪節水コマを設置している ⑫既存建物は存置としている ⑬有害物質を含まない材料を使用し、断熱材もGWPが低いものを採用している</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭一般的な建物と同等のCO2排出量とした ⑮熱損失を防止し、空調エネルギーの効率利用を行う</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.9
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯建築基準法を満たす耐震性能を有する計画とする ⑰節水型の衛生器具を採用している。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 ⑲天井高さを確保し、ゆとりある空間とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑保護者や地域住民が利用できる多目的室を計画する。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.4
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤敷地内の植栽やビオトープなどは触らない計画とし、生物環境の保全を行う</p> <p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑮熱損失を防止し、空調エネルギーの効率利用を行う</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ⑫ まちなみ・景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			